

2025（令和7）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700380	事業の開始年月日	令和2年6月1日
		指定年月日	令和2年6月1日
法人名	医療法人 光陽会		
事業所名	ブルーホーム磯子		
所在地	( 235-0008 ) 横浜市磯子区原町3-20		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3 ユニット
自己評価作成日	令和7年12月25日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

透析を受けていらっしゃる利用者様を積極的に受け入れている。協力医療機関として磯子中央病院、やすらぎ訪問看護ステーションとの連携、また、関東病院の往診、連携、および磯子中央病院歯科の訪問、口腔ケア、治療、同じく磯子中央病院メンタル往診などで、利用者様が元気に安定した状態で過ごせるよう支援している。各ユニットでは、職員が利用者様一人ひとりに合わせたケアを心掛け、個別性を重視し、不安なく安心して過ごせるようケアを行っている。出来ることは行っていただき、声かけを行うことで、自立に向けた援助を行えるよう努めている。また、通信の作成やインスタグラムの活用で、ご家族へ利用者様の生活の様子をお知らせしている。職員を明るく、元気に、しっかりと挨拶をするをモットーに日々のケアを行っている。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橘1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月23日	評価機関 評価決定日	令和8年3月20日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

医療法人が運営する認知症高齢者グループホームで、病院・介護施設など複数の施設を運営する法人の強みを活かした支援を行っています。JR根岸線「根岸」駅より徒歩約8分に位置し、1～3階の3ユニット構成で、横浜市主要地方道82号沿いの利便性の高い立地にあります。

<優れている点>  
職員が自ら策定した理念のもと、利用者の希望を叶える支援と働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。管理者着任時に職員一人ひとりが求める介護の姿を出し合って理念を策定し、「私たちが目指すもの」4項目を定めることで、ケアの方向性を具体的に示しています。職員が理念を自ら作り上げることで当事者意識を持ってケアに取り組む職場風土を築いています。利用者の状況を把握した個別対応を徹底し、やりたいことを支援することでその人らしい生活の実現につなげています。年間計画に基づく月次の職員研修で知識をリフレッシュし、学びを日々のケアに活かす仕組みを整えています。食事レクでの調理参加やドッグセラピーなど利用者の生活を豊かにする活動を提供し、職員がお互いにフォローし合うチームワークで安定したケアを継続しています。

<工夫点>  
利用者本位の職員配置を実施しており、利用者との信頼関係を築くため、職員のフロアを固定し、利用者が安心して生活できるようにしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グルーホーム磯子
ユニット名	さざなみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		✓	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		✓	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は既に作成されており、職員・来所されたご家族、来訪者が見えるよう入り口にう掲示している。又、フロア会議にてケアの方向性等職員同士で話し合っている。	理念の策定・共有と実践を通じ、ケアの方向性を統一しています。管理者は着任時に職員との話し合いを重ね、理念「お一人お一人の心を大切に、その人らしい生活が穏やかで楽しめるよう支援します」を策定し、事業所内に掲示しています。職員は利用者一人ひとりの状況を把握してケアに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、町内会での縁側といった催しにも、職員と共に参加している。	利用者がなじみの地域との関係を継続し、社会参加できるよう支援しています。町内会館で実施する「えんがわ」に職員と共に参加し、体操や紐でトンボを作るなどの活動に参加しています。車椅子の利用者も交代で参加し、幼稚園・保育園の子どもたちがカレンダーを届けてくれたり、歌を通じた世代間交流を行っています。	酷暑などの影響で外出機会が制限される中、祭りへの参加や回覧板を活用した情報発信に取り組んでいます。今後は他事業所内覧会の実施など、地域との関係をさらに深める取組みが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍以来は、外出には制限を掛けている。地域の保育園との交流は継続出来ている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議メンバーは、ご家族や地域民生委員、町内会役員、地域包括センター職員等から構成されている。会議開催日程は、区職員にも連絡し出席をして頂いている。2か月に1回開催しており、事業所からの報告に対して、ご意見やご要望、ご質問を頂いている。	運営推進会議を通じ、地域や行政と情報を共有し、事業所運営の透明性を高めています。今年度は磯子区高齢障害支援課介護保険担当係長の参加を受けて助言をもらいながら、会議の実施状況を行政に伝えています。会議では事業所の状況を報告し、あわせて町内会役員から「えんがわ」やお祭りの情報を得るなど、双方向の情報交換を行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ご利用者様の中には生活保護受給者の方が多く、生保ワーカーとの情報連携は欠かさない。認定調査時には、管理者とケアマネが同席し、ご利用者様の暮らしぶりや生活に対するニーズ等を伝えている。	利用者の生活基盤を安定させるため、行政と密に連携しています。磯子区や中区職員と空室の相談などで連携し、来訪を多く受けています。利用者は入居半年後に住所を事業所に変更することが多く、身内や後見人がいれば生活保護受給者も受け入れるなど、行政と連携した支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化の為の指針を作成し、職員と共有意識を持ちながら介護に当たっている。研修も定期的で開催して知識の更新を心がけている。	利用者の尊厳を守り、身体拘束のないケアを実践するため、委員会と研修を継続しています。身体拘束適正化委員会は管理者・フロアリーダー・管理者補佐の3人で3ヶ月ごとに開催し、対象項目の確認と話し合いを行っています。職員は年2回の内部研修で学び、不参加者が学びを補完できるよう資料配布とレポート提出を義務づけています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内では定期的に研修会を開催しており、高齢者虐待防止法に関する理解や遵守に向けた取り組みを行っている。	利用者が安心して生活できるよう、虐待防止のための委員会・研修・職員のメンタル管理を一体的に進めています。虐待防止委員会は身体拘束適正化委員会と同時開催し、年2回の内部研修を実施しています。法人では毎年全職員にストレスチェックを実施し、スピーチロックなどに気づいた際はフロア会議で接遇を振り返っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入職時には、制度の説明を実施している。継続的な研修を引き続き計画していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については十分に説明を行い、利用料金や医療連携体制、重度化、看取りに関する対応を説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様へは管理者もしくは介護支援専門員より電話にてご要望を聴取しており、又、年に1度の家族アンケートにてご意見ご要望を伺っている。	利用者・家族の意見をケアに反映し、その人らしい生活を支援しています。日々の関わりや家族アンケート・電話で意見を収集し、要望を受けて昨年4月から外食・外泊を可能にしています。入居者のビールを飲みたいという希望を受け、話し合いの結果ノンアルコールビールを提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回全体会議、不定期にフロア会議を行っている。管理者やユニットリーダーは職員からの意見や要望を救い上げる様にしている。	職員の意見や提案を運営に反映し、働きがいのある職場づくりに取り組んでいます。毎月定例日の夕方に事務長を交えた全体会議を1時間実施し、夜勤者を含む多くの職員が参加できる機会を設け、職員の意見が経営層に直接届く仕組みにしています。年間行事や食事レクリエーションなど、職員の提案を積極的に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全体会議には事務長が出席し、給与査定時、賞与査定時の時期には説明を実施している。グループホームの収支状況の説明も行っている。休憩室の確保もしている。	職員が安心して長く働ける環境を整え、安定したケアの提供につなげています。残業が生じない勤務体制を構築し、有給は半日単位で10日前後取得できます。事務長が直接職員と面談し公正な評価に取り組んでいます。職員の要望を受け、各休憩室に加湿器を設置しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報収集をし、職員に対してその内容を伝達している。	職員の知識・介護スキルの向上を図り、質の高いケアの提供につなげています。年間計画に基づく内部研修を実施し、不参加者が学びを補完できるよう研修後1週間以内に資料配布とレポート提出を義務づけています。利用者一人ひとりの個性や状態に合わせたケアをOJTで伝えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が毎月本部の管理者会議に出席をし、参加者との情報交換をし、地域施設の情報を得ている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所面談では、ご本人様とご家族の生活状況の確認やご要望、不安を詳細に聴取し把握する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所面談では自宅での苦労話や生活状況を聴取し、施設でも反映出来る対応を提案して、安心していただける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所相談があった際に、ご家族のお気持ちやご本人に対するご相談を聴取する過程で、必要であれば、早急なサービス提供が出来る様に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の思いや不安、施設生活での楽しみを見つけながら、お互いに支え合う関係性の構築を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時や電話連絡の中でご本人のご様子やケア方法、内容を伝えて信頼関係の構築に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	令和7年5月より条件付きではあるが、外食も可能となり、ご家族と共に外出外食を楽しんで頂いている。	フロア固定の職員体制を作り、入居後は職員が最もなじみの存在になり、安心してホームで生活できるようにしています。ボランティアを受け入れ、コンサートでは昔なじみの歌謡曲や童謡を一緒に歌い、なじみの文化に触れる機会を設けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様が楽しく生活を送って頂ける様に、そしてご利用者様同士の関係が良好であるように職員が調整役となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用が終了されたご家族へも、機会があればご連絡を差し上げ、近況などを伺っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設内での関わりの中で、ご本人様の生活に対するご意向やご要望を吸い上げる様に努めている。	利用者の思いや意向を把握し、その人らしいケアに反映しています。入居時のアセスメント情報を利用者ファイルに綴じて一元管理し、必要な時にいつでも参照できるようにしています。日々の関わりやコミュニケーションを通じて生活背景から意向を把握し、申し送りノートや介護記録で職員間で共有し、一貫したケアを提供しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様との会話の中で、これまでの生活歴を聴取し、ご本人様に馴染んだ生活様式を提供出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送り等からご利用者様の生活リズムを把握し、その方に合った生活を送っていただける様に意識している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族のご要望をを聴取し、その情報をカンファレンスにて検討して作成している。	本人・家族の意向を介護計画に反映し、チームで質の高いケアを継続しています。面会時や電話で家族の要望を確認し、カンファレンスで職員の気づきや観察経過を共有しています。本人の意向や願いを介護計画に反映し、3ヶ月に一度モニタリングを行い次の計画につなげています。	短期目標に向けた日々の実施状況を記録し可視化することで、各職員が介護計画をより身近に感じ、計画作成に主体的に参加できるようになることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記載し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護だけでなく、お一人お一人の状況や状態に合わせて、通院等も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の縁側などへの参加など、町内会の情報を収集し、施設でも協力出来る事を模索していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	系列の関東病院や磯子中央病院、やすらぎ訪問看護ステーションとの連携で、ご利用者様が適切な医療を受けられる様に支援している。	利用者の健康管理と生活機能の維持のため、医療職との連携を積極的に行っています。内科医の訪問診療を月2回、看護師の訪問を週1回受け、管理者が関係書類を整理して対応し、家族の伝達事項も伝えています。訪問歯科医による口腔ケアと食形態の指導を受け、月1回嚥下評価を実施しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	やすらぎ訪問看護ステーションと週に1回の訪問で情報連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関東病院や磯子中央病院、やすらぎ訪問看護ステーションと日々情報交換を行い、関係作りに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時やその後も重度化に伴う意思確認書を取り交わしており、事業所が出来るケアの説明を実施している。	本人・家族の意向を尊重した終末期ケアを実現するため、方針の共有と支援体制を整えています。急変時に備えた意思確認書で延命の有無や看取りの希望を事前に確認し、終末期は医師・家族・管理者・ケアマネージャーが参加するカンファレンスで方針を共有しています。看取り後は職員同士で振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応は、一目でわかるフローチャートを作成しており、職員一人一人が対応出来る様に配備している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防点検は定期的に受けている、消防訓練やBCP作成により、職員への災害意識を喚起する取り組みを実施している。又、備蓄品もローリングストック法にて管理している。	利用者の安全を守るため、夜間想定を含めた避難訓練を実施し、食料・飲料水を利用者と職員分3日分備蓄しています。消火器を持つ利用者は消火訓練に参加し、自分の安全を守る体験の機会を設けています。地域の防災訓練への参加は今後の課題としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護を提供する際は、ご本人様のご意向を尊重し、ご本人様が事故決定出来る様に配慮する。	利用者の人格を尊重し、自己決定とプライバシーを守る支援を行っています。選択時は思いを直接聞き、表情観察から真意を読み取りケアに反映しています。トイレや脱衣の場面ではドアやカーテンをきっちり閉め、羞恥心に配慮した支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症がある為、ご希望やご要望の表出が困難である方のケアに関しては、ご家族のご意見やご本人様の行動や表情の変化などなるべく自己決定出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様のペースに合わせてつとも、規則正しい生活を送っていただけ様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様には、ご自身で好きな衣類や身の回り品を選んでいただける様に声かけをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食事以外に、食事レクリエーションを開催して、召し上がりたいメニューなど変化のある食事の提供に努めている。	食事を楽しむ機会を大切にし、利用者が調理に参加する支援を行っています。フロア合同のホットケーキや園芸で育てたニガウリでゴーヤチャンプルーを作るなど、利用者が料理の実力を発揮できる機会を積極的に設けています。月1回は北海道から沖縄までのご当地グルメや季節感のある食事を提供し、食卓拭きや下膳など役割も担っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士からは研修も含めて、高齢者に関する栄養について学ぶ機会を得ている。学んだ知識を日々の支援に活かせるように工夫をこらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご入居者の口腔状況やADLに合わせて、食後は洗面所にて口腔ケアを実施して頂いている。義歯の洗浄は職員が実施している。又、磯子中央病院歯科の定期的な訪問にて、口腔ケアを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人様のADLを評価し、排泄ケアを実施している。排泄リズムがある為、お一人お一人の状況を見極める様に連携を心がけている。	排泄の自立を支援するため、利用者の残存能力を活かし、過介助にならないよう職員は見守りに徹し、ズボンの上げ下げなど利用者自身で行えるよう支援しています。終日布パンツで過ごせるよう支援している利用者も数名います。職員は排泄パターンを把握し、適切なタイミングで声かけを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便がスムーズにある様に、ヨーグルトの提供や体幹を動かす体操、水分補給の声掛けを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お一人お一人の生活リズムを観察した上で、入浴のお声掛けをして入浴していただいている。入浴剤もご本人がリラックス出来る様に選択している。	入浴を生活の楽しみとして継続できるよう、個別に対応した支援を行っています。一人ひとりにゆっくり入浴できるよう約30分の時間を確保し、3種類の入浴剤から自分の好みを選べるようにしています。入浴を拒否する利用者には時間をずらしたり違う職員が声かけするなど工夫し、個浴・特浴を状態に応じて活用しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならない様に、日中の活動をしていただき、夜間良眠が出来る様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人個人のケースに薬剤師がセッティングをしてきており、提供時は職員もダブルチェックを行って、誤薬の無いように注意している。ご本人にも確認して内服支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人様が出来る活動をしていただけるようにお声掛けしている。実施して頂いた際は、感謝の言葉を伝えている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良く暖かい日は、近隣神社等に職員も付いて出掛けている。保育園との交流や町内会の行事にも、職員が付き添える場合は参加をしている。	気分転換と社会参加の機会を確保するため、日常的な外出支援を行っています。週1回は車椅子の利用者も含めて外出しています。家族と外出する利用者もおり、毎週開催の地域サロン「えんがわ」での体操や交流、外出が難しい日はベランダでの外気浴や草花への水やりで屋外環境との関わりを大切にしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様からご希望がある場合は、預り金から近隣のお店に出掛けて、ご希望の商品を購入する支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙の支援は可能であること、ご家族からのお電話も取り次いでいる。ご本人様のご希望があれば、ご家族へのご連絡もお手伝いしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部のフロアリビングでは、皆様が集まりお過ごしになる空間である為、明るく季節感が感じられる飾り付け等で快適になるように努めている。浴室やトイレ、キッチンも職員同氏が連携して掃除を欠かさない。エアコンの調整も、ご利用者様が不快に感じない様に配慮している。	利用者が居心地よく過ごせるよう、五感に働きかける共用空間づくりに取り組んでいます。観葉植物や自然光、調理の湯気など生活感のある環境を整え、ダウンライトで目に優しい空間にしています。ソファやテーブルの配置は利用者一人ひとりに合わせて工夫し、自然な交流が生まれるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご入居者様がご自身の場と感じられる様な安心して過ごしていただける様に、他の方との関係性も検討してお席を決定する。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身のお部屋の為、ご自身に馴染みのある物やご家族が持ち込まれた写真などを置いて貰い、安心して過ごして頂けるように努めている。	利用者がなじみの環境の中で安心して生活できるよう、居室環境を整えています。家族の写真や仏壇・お位牌などの持ち込みを受け入れ、自分らしい居室づくりを支援しています。友人や家族の面会時は自室で迎えられるよう環境を整え、プライバシーに配慮した交流の場を提供しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者様の身体状況をカンファレンスにて把握し、その方のADLが維持出来る様な福祉用具の配置や動線の確保などを設定している。		

事業所名	グルーホーム磯子
ユニット名	そよかぜ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		✓	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		✓	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は既に作成されており、職員・来所されたご家族、来訪者が見えるよう入り口にう掲示している。又、フロア会議にてケアの方向性等職員同士で話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、町内会での縁側といった催しにも、職員と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍以来は、外出には制限を掛けている。地域の保育園との交流は継続出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議メンバーは、ご家族や地域民生委員、町内会役員、地域包括センター職員等から構成されている。会議開催日程は、区職員にも連絡し出席をして頂いている。2か月に1回開催しており、事業所からの報告に対して、ご意見やご要望、ご質問を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ご利用者様の中には生活保護受給者の方が多いため、生保ワーカーとの情報連携は欠かせない。認定調査時には、管理者とケアマネが同席し、ご利用者様の暮らしぶりや生活に対するニーズ等を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化の為の指針を作成し、職員と共有意識を持ちながら介護に当たっている。研修も定期的を開催して知識の更新を心がけている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内では定期的に研修会を開催しており、高齢者虐待防止法に関する理解や遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入職時には、制度の説明を実施している。継続的な研修を引き続き計画していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については十分に説明を行い、利用料金や医療連携体制、重度化、看取りに関する対応を説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様へは管理者もしくは介護支援専門員より電話にてご要望を聴取しており、又、年に1度の家族アンケートにてご意見ご要望を伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回全体会議、不定期にフロア会議を行っている。管理者やユニットリーダーは職員からの意見や要望を救い上げる様にしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全体会議には事務長が出席し、給与査定時、賞与査定時の時期には説明を実施している。グループホームの収支状況の説明も行っている。休憩室の確保もしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報収集をし、職員に対してその内容を伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が毎月本部の管理者会議に出席をし、参加者との情報交換をし、地域施設の情報を得ている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所面談では、ご本人様とご家族の生活状況の確認やご要望、不安を詳細に聴取し把握する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所面談では自宅での苦労話や生活状況を聴取し、施設でも反映出来る対応を提案して、安心していただける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所相談があった際に、ご家族のお気持ちやご本人に対するご相談を聴取する過程で、必要であれば、早急なサービス提供が出来る様に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の思いや不安、施設生活での楽しみを見つけながら、お互いに支え合う関係性の構築を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時や電話連絡の中でご本人のご様子やケア方法、内容を伝えて信頼関係の構築に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	令和7年5月より条件付きではあるが、外食も可能となり、ご家族と共に外出外食を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居様が楽しく生活を送って頂ける様に、そしてご入居者様同士の関係が良好であるように職員が調整役となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用が終了されたご家族へも、機会があればご連絡を差し上げ、近況などを伺っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設内での関わりの中で、ご本人様の生活に対するご意向やご要望を吸い上げる様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様のとの会話の中で、これまでの生活歴を聴取し、ご本人様に馴染んだ生活様式を提供出来るよう様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送り等からご利用者様の生活リズムを把握し、その方に合った生活を送っていただける様に意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族のご要望をを聴取し、その情報をカンファレンスにて検討して作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記載し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護だけでなく、お一人お一人の状況や状態に合わせて、通院等も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の縁側などへの参加など、町内会の情報を収集し、施設でも協力出来る事を模索していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	系列の関東病院や磯子中央病院、やすらぎ訪問看護ステーションとの連携で、ご利用者様が適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	やすらぎ訪問看護ステーションと週に1回の訪問で情報連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関東病院や磯子中央病院、やすらぎ訪問看護ステーションと日々情報交換を行い、関係作りに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時やその後も重度化に伴う意思確認書を取り交わしており、事業所が出来るケアの説明を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応は、一目でわかるフローチャートを作成しており、職員一人一人が対応出来る様に配備している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防点検は定期的に受けている、消防訓練やBCP作成により、職員への災害意識を喚起する取り組みを実施している。又、備蓄品もローリングストック法にて管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護を提供する際は、ご本人様のご意向を尊重し、ご本人様が事故決定出来る様に配慮する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症がある為、ご希望やご要望の表出が困難である方のケアに関しては、ご家族のご意見やご本人様の行動や表情の変化などでなるべく自己決定出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様のペースに合わせてつつも、規則正しい生活を送っていただけ様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様には、ご自身でお好きな衣類や身の回り品を選んでいただける様に声かけをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食事以外に、食事レクリエーションを開催して、召し上がりたいメニューなど変化のある食事の提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士からは研修も含めて、高齢者に関する栄養について学ぶ機会を得ている。学んだ知識を日々の支援に活かせるように工夫をこらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご入居者の口腔状況やADLに合わせて、食後は洗面所にて口腔ケアを実施して頂いている。義歯の洗浄は職員が実施している。又、磯子中央病院歯科の定期的な訪問にて、口腔ケアを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人様のADLを評価し、排泄ケアを実施している。排泄リズムがある為、お一人お一人の状況を見極める様に連携を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便がスムーズにある様に、ヨーグルトの提供や体幹を動かす体操、水分補給の声掛けを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お一人お一人の生活リズムを観察した上で、入浴のお声掛けをして入浴していただいている。入浴剤もご本人がリラックス出来る様に選択している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならない様に、日中の活動をしていただき、夜間良眠が出来る様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人個人のケースに薬剤師がセッティングをしてくれており、提供時は職員もダブルチェックを行って、誤薬の無いように注意している。ご本人にも確認して内服支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人様が出来る活動をしていただけるようにお声掛けしている。実施して頂いた際は、感謝の言葉を伝えている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良く暖かい日は、近隣神社等に職員も付いて出掛けている。保育園との交流や町内会の行事にも、職員が付き添える場合は参加をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様からご希望がある場合は、預り金から近隣のお店に出掛けて、ご希望の商品を購入する支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙の支援は可能であること、ご家族からのお電話も取り次いでいる。ご本人様のご希望があれば、ご家族へのご連絡もお手伝いしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部のフロアリビングでは、皆様が集まりお過ごしになる空間である為、明るく季節感が感じられる飾り付け等で快適になるように努めている。浴室やトイレ、キッチンも職員同氏が連携して掃除を欠かさない。エアコンの調整も、ご利用者様が不快に感じない様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご入居者様のご自身の場と感じられる様な安心して過ごしていただける様に、他の方との関係性も検討してお席を決定する。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身のお部屋の為、ご自身に馴染みのある物やご家族が持ち込まれた写真などを置いて貰い、安心して過ごして頂けるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者様の身体状況をカンファレンスにて把握し、その方のADLが維持出来る様な福祉用具の配置や動線の確保などを設定している。		

事業所名	グルーホーム磯子
ユニット名	ひだまり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		✓	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		✓	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は既に作成されており、職員・来所されたご家族、来訪者が見えるよう入り口にう掲示している。又、フロア会議にてケアの方向性等職員同士で話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、町内会での縁側といった催しにも、職員と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍以来は、外出には制限を掛けている。地域の保育園との交流は継続出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議メンバーは、ご家族や地域民生委員、町内会役員、地域包括センター職員等から構成されている。会議開催日程は、区職員にも連絡し出席をして頂いている。2か月に1回開催しており、事業所からの報告に対して、ご意見やご要望、ご質問を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ご利用者様の中には生活保護受給者の方が多いため、生保ワーカーとの情報連携は欠かせない。認定調査時には、管理者とケアマネが同席し、ご利用者様の暮らしぶりや生活に対するニーズ等を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化の為の指針を作成し、職員と共有意識を持ちながら介護に当たっている。研修も定期的を開催して知識の更新を心がけている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内では定期的に研修会を開催しており、高齢者虐待防止法に関する理解や遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入職時には、制度の説明を実施している。継続的な研修を引き続き計画していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については十分に説明を行い、利用料金や医療連携体制、重度化、看取りに関する対応を説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様へは管理者もしくは介護支援専門員より電話にてご要望を聴取しており、又、年に1度の家族アンケートにてご意見ご要望を伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回全体会議、不定期にフロア会議を行っている。管理者やユニットリーダーは職員からの意見や要望を救い上げる様にしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全体会議には事務長が出席し、給与査定時、賞与査定時の時期には説明を実施している。グループホームの収支状況の説明も行っている。休憩室の確保もしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報収集をし、職員に対してその内容を伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が毎月本部の管理者会議に出席をし、参加者との情報交換をし、地域施設の情報を得ている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所面談では、ご本人様とご家族の生活状況の確認やご要望、不安を詳細に聴取し把握する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所面談では自宅での苦労話や生活状況を聴取し、施設でも反映出来る対応を提案して、安心していただける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所相談があった際に、ご家族のお気持ちやご本人に対するご相談を聴取する過程で、必要であれば、早急なサービス提供が出来る様に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の思いや不安、施設生活での楽しみを見つけながら、お互いに支え合う関係性の構築を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時や電話連絡の中でご本人のご様子やケア方法、内容を伝えて信頼関係の構築に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	令和7年5月より条件付きではあるが、外食も可能となり、ご家族と共に外出外食を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居様が楽しく生活を送って頂ける様に、そしてご入居者様同士の関係が良好であるように職員が調整役となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用が終了されたご家族へも、機会があればご連絡を差し上げ、近況などを伺っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設内での関わりの中で、ご本人様の生活に対するご意向やご要望を吸い上げる様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様のとの会話の中で、これまでの生活歴を聴取し、ご本人様に馴染んだ生活様式を提供出来るよう様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送り等からご利用者様の生活リズムを把握し、その方に合った生活を送っていただける様に意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族のご要望をを聴取し、その情報をカンファレンスにて検討して作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記載し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護だけでなく、お一人お一人の状況や状態に合わせて、通院等も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の縁側などへの参加など、町内会の情報を収集し、施設でも協力出来る事を模索していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	系列の関東病院や磯子中央病院、やすらぎ訪問看護ステーションとの連携で、ご利用者様が適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	やすらぎ訪問看護ステーションと週に1回の訪問で情報連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関東病院や磯子中央病院、やすらぎ訪問看護ステーションと日々情報交換を行い、関係作りに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時やその後も重度化に伴う意思確認書を取り交わしており、事業所が出来るケアの説明を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応は、一目でわかるフローチャートを作成しており、職員一人一人が対応出来る様に配備している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防点検は定期的に受けている、消防訓練やBCP作成により、職員への災害意識を喚起する取り組みを実施している。又、備蓄品もローリングストック法にて管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護を提供する際は、ご本人様のご意向を尊重し、ご本人様が事故決定出来る様に配慮する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症がある為、ご希望やご要望の表出が困難である方のケアに関しては、ご家族のご意見やご本人様の行動や表情の変化などでなるべく自己決定出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様のペースに合わせつつも、規則正しい生活を送っていただけ様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様には、ご自身でお好きな衣類や身の回り品を選んでいただける様に声かけをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食事以外に、食事レクリエーションを開催して、召し上がりたいメニューなど変化のある食事の提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士からは研修も含めて、高齢者に関する栄養について学ぶ機会を得ている。学んだ知識を日々の支援に活かせるように工夫をこらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご入居者の口腔状況やADLに合わせて、食後は洗面所にて口腔ケアを実施して頂いている。義歯の洗浄は職員が実施している。又、磯子中央病院歯科の定期的な訪問にて、口腔ケアを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人様のADLを評価し、排泄ケアを実施している。排泄リズムがある為、お一人お一人の状況を見極める様に連携を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便がスムーズにある様に、ヨーグルトの提供や体幹を動かす体操、水分補給の声掛けを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お一人お一人の生活リズムを観察した上で、入浴のお声掛けをして入浴していただいている。入浴剤もご本人がリラックス出来る様に選択している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならない様に、日中の活動をしていただき、夜間良眠が出来る様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人個人のケースに薬剤師がセッティングをしてくれており、提供時は職員もダブルチェックを行って、誤薬の無いように注意している。ご本人にも確認して内服支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人様が出来る活動をしていただけるようにお声掛けしている。実施して頂いた際は、感謝の言葉を伝えている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良く暖かい日は、近隣神社等に職員も付いて出掛けている。保育園との交流や町内会の行事にも、職員が付き添える場合は参加をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様からご希望がある場合は、預り金から近隣のお店に出掛けて、ご希望の商品を購入する支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙の支援は可能であること、ご家族からのお電話も取り次いでいる。ご本人様のご希望があれば、ご家族へのご連絡もお手伝いしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部のフロアリビングでは、皆様が集まりお過ごしになる空間である為、明るく季節感が感じられる飾り付け等で快適になるように努めている。浴室やトイレ、キッチンも職員同氏が連携して掃除を欠かさない。エアコンの調整も、ご利用者様が不快に感じない様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご入居者様のご自身の場と感じられる様な安心して過ごしていただける様に、他の方との関係性も検討してお席を決定する。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身のお部屋の為、ご自身に馴染みのある物やご家族が持ち込まれた写真などを置いて貰い、安心して過ごして頂けるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者様の身体状況をカンファレンスにて把握し、その方のADLが維持出来る様な福祉用具の配置や動線の確保などを設定している。		

2025年度

事業所名

作成日： 令和8年 3月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の他事業所や、地域住民との関りを構築する体制づくり。	グループホーム磯子をさらに深く知っていただき、交流を深める。	他事業者、地域住民に対し、内覧会を行い、グループホームの生活自体や雰囲気を知っていただく。	6ヶ月
2	13	各介護職員が介護計画に沿った介護を行うとともに、計画作成に主体的に参加する体制づくり。	介護職員が介護計画を身近に感じ、介護を実践し、記録に残す。	常に意見を交わし、介護方法の検討をカンファレンスを行い実施し、その結果を計画作成に落とし込んでく。	6ヶ月